

# 「新柿線はしっかりと整備すべき路線」 県土木部長が新井柿崎線の整備促進要請受け発言

県道新井柿崎線整備促進議員連盟のメンバー10人は28日、県庁に出かけ、道路改良、歩道整備、防雪柵設置などを中田一男土木部長に要請してきました。秋山、斎京、櫻庭県議にも同席していただきました。県庁では議員連盟の宮崎会長が中田部長に要望書を手渡し、懇談しました。同部長は、「この路線の重

要性は意識している。財政的に厳しい面もあるが、国の支援も受けながら、しっかりと整備すべき路線だ」と述べていました。また、道路維持課長などが要望書に添付した要望が所一覽に基づき、おもな要望が所について現状と今後の取組について語りました。県土木部の幹部のみなさんとの懇談の中で、取り上げられた要望箇所のひとつ、三和区下中地内のカーブの改良については、宮崎会長が、「(新井柿崎線の中で)一番きびしいカーブ。地図困難で4年目になっているが、一日も早くお願いしたい」と発言、これに対して担当課長は、

「用地(問題)が片付いたところから進めていき、たいとのべました。要望が所の多い防雪柵設置については、現在、大湊区内雁子付近まで設置が進んでいますが、連盟側から、早く終わらせ、他の地域にも整備を進めてほしい」という声が上がりました。担当課長によると、「今冬、(改めて)地吹雪調査を進めていく」とのことでした。



## 京都・東本願寺へ

10月23日、被害本願寺に寄ってきました。注目したのは、御影堂と阿弥陀堂をつなぐ廊下に展示されている「大櫓の説明板」です。1883年3月、吉川区尾神で発生した雪崩れ事故についての記述で、大櫓で運

んでいた櫓の巨木の出どころは、「川谷村より切り出した」と修正されていました。



## 市政への要望、いくつも

日本共産党議員団が29日、大湊地区公民館で実施した議会報告会には20人近い人たちからご参加いただきました。

議会報告後の懇談会では、「防災行政無線はこれまでのように発信を」「施設を造るなら、妙高市のワクワランドのような子どもたちが喜ぶ施設を造って」「犀潟駅

のあり方について方向性を定めてほしい」「放射線量測定値は県のモニタリングポストと消防署でだいぶ開きがある。何故か」「市の広報は月2回発行を維持してほしい。安否確認の意味もある」などたくさん意見、質問、要望を寄せていただきました。議員団でしっかり対応します。



【ハキダメギク】。キク科の1年草。漢字で「掃溜菊」と書きます。牧野博士もかわいそうな名前をとときつけますね。草丈は大きいもので60センチくらい。6月～11月に中心部に黄色、そのまわりに白い舌状花を咲かせます。花言葉は「不屈の精神」。30日、吉川区尾神で撮影。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1932 2019.11.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第五八〇回 一枚の小さな絵

まだ見ぬ人への想いが広がる。七〇歳を前にして、不思議な体験をしました。

日曜日のお昼過ぎの時間帯でした。私は旧第四銀行高田支店の一階で開催されていた九回目の「ぬくもり展」をぐるっと観たところで、受付兼案内係をしていた女性、Oさんに声をかけました。

この女性に声をかけたのには理由がありました。私が最後に観た一枚の大きな作品のなかに書かれていた「わたなべ・きよし」という作者がどこの施設の人か知りたかったからです。

Oさんによると、この「わたなべ・きよし」さんは既に亡くなっていました。八人の男性と一人の女性を描いた実際の作品は展示されていたものより小さかったそうですが、目や鼻、ヒゲの独特な表現、カラフルで直線を活かした衣装の描き方など、観るものを強くひきつけました。それで、作品を拡大し、これまでも何回か「ぬくもり展」で展示してきたというのでした。

この質問を契機にOさんとは、その後、三〇分ほど話をすることになりました。ちょうどお昼休みの時間帯だったということもあり、お客さんはほとんどありませんでした。

Oさんとは、「わたなべ・きよし」さんの作品の魅力を語りあうことを出発点にして、私が「つどいの郷」のHさんの作品の下に「ステキな色合いですね」というコメントを書いたことやOさんが観た瞬間に強烈な印象を持ったという「つどいの郷」のSさんの作品のことなどで話が弾みました。歌舞伎の役者特有の化粧法、くまどりを描いたSさんが、お父さんに連れられ、何度も何度も歌舞伎を見てきたことなど興味深く聴きました。

話をするなかで、展示されていた作品の解説がじつにわかりやすかったので、どう

いう人なのかと思ったり、Oさんは長年にわたって陶芸をしてこられた方でした。芸術作品に造詣が深いわけです。

私が名刺を渡すと、Oさんから名刺代わりに縦一五枚、横二一五枚の紙をもらいました。そこには陶芸の歩みを書かれたご自身の経歴とともに、「洋子さんのはなあかり」と書かれた絵がありました。

この「名刺」をもらった瞬間、私はこの絵に引き込まれました。観るものをふわっと包み込む素敵な温かさを感じたのです。

絵は名刺と同じ横幅で、縦が一五ほど短く小さなものです。真ん中の「あかり」の縁（ふち）の線は淡い黒が使われています。「あかり」のまわりには、黄色の花びらのようなものが濃淡をつけてたくさん描かれています。多分、「あかり」から飛び出していく光なのでしょう。

これまで私はオレンジ色が温かさを描く時の色と使っていました。この作品を観て、黄色を使っても温かさを表現できることを学びました。

この小さな絵の左下にはカタカナで「リツ」と書かれていました。リツさんは妙高山関山の方で、児童文学作家の杉みき子さんの第一回文章教室の生徒さんでもあったとOさんからお聞きしました。文章もお上手で、童話も書かれるということ。素敵な絵を描くだけでなく、文章も書いて、童話とか絵本も作られている。そこまで聞いたなら、まだ見ぬリツさんにたまらなく会いたくなりました。

Oさんの話では、リツさんは九四歳。最近、目が不自由になられ、外にはめったに出られないとのこと。幸い、ご自宅では娘さんが小さな料理店を開いておられるとも聞きました。ぜひ一度、リツさんとお会いし、どんな人か知りたい。そして絵や絵本も見せてもらえたらと思います。

## 地域作品展は9回目

柿崎区下黒川小学校での地域作品展は今年で9回目。校区内の作者の作品だけでなく、直海浜のM子さんの絵、土底浜のSさんの織物、小猿屋のUさんの竹細工など校区外の作品も展示されていました。ずっと続けてほしいですね。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月23日(水)	10月30日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.043

### 大潟で市村幸恵さんがジョイントコンサート

吉川区出身の市村幸恵さんのピアノとチェコフィルハーモニー管弦楽団の第1バイオリン奏者・ヴィクトル・マザーチェクさんのバイオリンが奏でる「魂の響き〜チェコの哀愁を音にのせて」を先月26日、聴いてきました。演奏曲はモーツァルトやドヴォルジャークの作品のほか、「夏は来ぬ」など日本の歌も。久しぶりに充実感のあるコンサートを聴き、このところの疲れも吹っ飛びました。今回は演奏者から数メートルの席で聴くことができました。

幸恵さんが時どき見せたほほ笑み、ヴィクトルの、小鳥が盛んに餌をつつついているような激しい指の動きも見ることができました。楽しいコンサートでした。

